

I — B — 10

月経困難症に対する冠元顆粒の治験

南多摩病院

○村田高明

【目的】月経困難症に悩む女性は多い。なかでも月経痛の頑症例では鎮痛剤の増量が強られる。月経痛の原因はその60～70%は子宮内膜症である。子宮内膜症の病態像は局所的に瘀血状態であり、これ迄にも駆瘀血剤が用いられ、折衝飲、桂枝茯苓丸や桃核承気湯などの投与が有効であった。最近、駆瘀血作用のある中成薬「冠元顆粒[®]」を治験する機会があり、月経困難症に対する効果について検討したので報告する。

【対象】月経困難症とくに月経痛を主訴とし来院した患者で、ダナゾール、ブセレリンや漢方薬を行うも改善されなかった症例20名を対象とした。年齢構成は最少27歳、最長50歳、平均38.4歳であり、20代2名、30代10名、40代7名および50代1名であった。基礎疾患は子宮内膜症9名、子宮筋腫9名および機能性月経痛2名であった。

【結果】効果判定は第3月経周期を以て行い、有効症状では嘔気87.5%、乳房痛85.6%、下腹痛80%、いらいら80%、頭痛77.7%、肩こり71.3%、下腹部膨満感70.5%、手足の冷え66.6%、めまい66.6%、腰痛60%および感冒様症状60%であった。月経におよぼす影響では、月経周期は不変あるいは頻発月経に移行、月経期間は正常範囲での変化、経血量では6例に過多月経から普通量に復し、凝血が軽減したのが5例あった。検査項目では血色素量減量3例あった他、末梢血液および肝機能は異常値をみなかった。服用後の患者の印象は以前の治療に比べて効いていると答えた症例は、著効4例、有効5例、やや有効8例で、20症例中17例（85%）の有効率であった。【考察】冠元顆粒は駆瘀血薬に分類される丹参、芍薬、紅花、川芎と理気薬に分類される木香、香附子から構成されている。1日量（9g）中に、丹参4.5g、芍薬2.25g、紅花2.25g、川芎2.25g、木香1.125g、香附子1.125gから製した乾燥エキス4.5gを含有している。月経困難症は基礎疾患に内性・外性子宮内膜症があり、病態的には瘀血徴候がある。そのため、漢方療法では瘀血剤が応用されているが、それでもなお難治症例に遭遇する。多くの症例では精神症状も高じているので、気血同病の面からの治療が適うと考える。そこで、中成薬の「冠元顆粒」を投与したところ右効症例を得るに至った。【結論】既往治療でかならずしも軽減しなかった症例に「冠元顆粒」の治験を行い、85%の有効率を得、副作用も少なかった。